

長野市観光の現状と課題把握 ～各種調査等の結果報告～（概要版）

実施概要 長野市観光の現状と課題を把握するため、以下の調査等を実施してきた。本書では、各調査等の特徴的な結果等について、取りまとめる。

名称	実施内容	主な結果
1	ギャップ調査 長野市観光資源の認知度、魅力度、観光行動等を把握するため、インターネット調査を実施。 実施期間：2015年11月4日（水）～30日（月） 回答数：計1,154件 （来訪経験あり648件、来訪経験なし506件）	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知度が平均点以上の観光地は、「善光寺」「善光寺の門前町」「戸隠（戸隠神社、鏡池、戸隠そば）」である。これらの観光地は、魅力度も平均点以上であり、ブランド力がある観光地といえる。 ● 「戸隠高原」は、認知度は平均点以上であったが、魅力度がやや低い。それ以外の観光地は、認知度、魅力度が平均点以下であった。 ● 市外立ち寄り地点は、松本市、軽井沢町、小布施町、飛騨・高山が多い傾向にある。
2	来訪者調査（日本語） 善光寺、戸隠、松代来訪者の観光行動や課題、観光消費額（※経済波及効果算出のため）等を把握するために実施。 対面調査は、善光寺・戸隠・松代にて実施。留置調査は、市内各観光案内所にて実施。回答数328件	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内立ち寄り地点が1ヵ所のみの方が約5割を占める。特に初めて長野市を訪れる観光客において、その傾向が強い。1ヵ所のみ理由としては、「行きたいが日数が足りない」が約5割。なお、善光寺での対面調査では「他観光地を知らない」もやや多くあげられている。 ● 市外立ち寄り地点は、小布施町、松本市、上田市、軽井沢町が多い傾向にある。
3	外国人旅行者調査 長野市を訪れた外国人旅行者の観光行動や課題、観光消費額（※経済波及効果算出のため）等を把握するために実施。留置調査にて実施、回答数は116件。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人旅行者は、東京と京都を訪れる途中で長野市に立ち寄っている。市内では「善光寺」、近隣では「湯田中温泉（スノーモンキー等）」「松本」に立ち寄る者が多い。「戸隠神社」に立ち寄っている旅行者も見受けられる。
4	GPS調査 KDDIの位置情報データより、2015年8月1日～10月31日の間に、長野市で旅行した者（市内在住者、通勤者除く）を抽出し、市内周遊状況・平均滞在時間などを分析。市内観光地エリアは、善光寺界隈、長野駅周辺、戸隠、松代、飯綱高原の5エリアで分析を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ● 善光寺周辺、長野駅周辺、松代は長野県内来訪者がもっとも多い。戸隠、飯綱高原の来訪者は、県外が多い。 ● 滞在時間は、市内観光地エリアの中で善光寺界隈が最も短い。 ● 立ち寄り地点をみると、松本市、上田市、千曲市への立ち寄りが多い。 ● 市内観光エリアを2箇所以上立ち寄ったときのルートとしては、「善光寺界隈ー長野駅周辺」がもっとも多く、次いで、善光寺界隈ー戸隠が多い。 <p>※上記データは、KDDI×コロプラの観光レポートより</p>
5	インバウンド調査 各国の主要ガイドブック等で、長野市の観光地がどのような評価を受け、紹介をされているのか把握を行った。 Lonely planet、Michelin、CHUBU（タイ）等	<ul style="list-style-type: none"> ● 「善光寺」「戸隠神社」が主に紹介されていた。 ● 「善光寺」は、Michelinで三つ星の評価を得ており、Lonely Planetでもしっかりと紹介されている。特に、歴史やお戒壇巡り、お朝事など他にはない体験や、お土産や飲食店が並ぶ仲見世通りが評価されている。 ● 「戸隠」は、Michelinで二つ星の評価である。修験道など独自の歴史、奥社の杉並木の幻想的な風景が紹介されている。
6	観光事業者調査 市内で観光分野に携わっている事業者10団体（宿泊施設・交通・商店等）に対して、現状や課題、今後本市の観光において活用できる強み等について、個別にヒアリングを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年の傾向として、「外国人旅行者の増加」「北陸地方からの観光客の増加」「バスによる団体旅行者の減少、個人旅行へのシフト」「滞在時間の短縮化傾向」「宿泊の稼働率向上」があげられる。 ● 長野市の強みは、歴史・文化、山岳、自然、食材等、よい素材がそろっていること。資源を磨き、コーディネートしていくことが必要。また、東京、軽井沢、松本、金沢等へアクセスしやすい位置にあり、広域観光の拠点となりうる。 ● 善光寺来訪者への他観光情報の提供不足により、周遊につながっていない。近隣エリアの観光情報を積極的に発信し、少しでも周遊させる工夫が必要。もっと他地域の情報を知りたい。互いに勉強できる機会があるとよい。 ● 観光客に楽しんでもらい、お金を落としてもらおう工夫ができていない。観光客増が経済活性化につながっていない。 ● 善光寺、戸隠では慢性的な駐車場不足、交通渋滞等が課題となっている。それにより満足度が下がり、今後來訪しないのではないか、との懸念がある。
7	現行計画の評価 テーマ別キャンペーン、施策の実施状況、成果、課題等を把握した。 各種統計データを用い、他地域と比較しながら本市の動向を把握。	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれのテーマについて、重点的に取り組んだことにより、新たなコンテンツが開発され、キャンペーン終了後も定着し、継続的に実施されているものもある。 ● まち歩き等のイベントは近隣からの参加者が多く、交流人口の増加につながったが、宿泊者数や観光消費額等につながりづらいものもあった。 ● 現行計画では「観光入込客数」「市内観光消費額」「市内宿泊者数」の3つを指標として掲げている。 ● 観光入込客数の目標値は、平成28年度に1,200万人である。御開帳時には1,500万人を超えるものの、それ以外の時期は1,000万人前後を推移している。善光寺への入込客数は横ばいであるが、それ以外は伸び悩むエリアが多い。国内の観光市場が縮小傾向にあることが影響している。 ● 市内観光消費額の目標値は、平成28年度に490億円である。現時点では目標値に達していない。 ● 市内宿泊者数の目標値は、平成28年度に220万人である。平成24年度より200万人台を維持しており、ほぼ横ばいで推移している。 ● 近年の特徴的な傾向は、外国人旅行者の増加である。しかし、白馬村、松本市と比較して伸び率は低い。
8	市民ワーキング 市民、観光事業者等のワーキングにて、長野市観光の現状の共有、必要事業の検討等を行っている。 ※構成メンバーは、各団体の推薦及び公募委員による	<ul style="list-style-type: none"> ● SWOT分析を実施。長野市全体の伸ばすべき強みとしては、特に「市街地と自然豊かなエリアが共存、近接している」に関連する項目が多くあげられた。克服すべき課題は、交通や宿泊施設といったハード面に関する課題、「市内周遊がなされていない」、「資源が活用しきれていない」等のソフト面に関する課題など多岐にわたっている。 ● 地域別の強みとしては、地域に存在するコンテンツ・観光資源に関する内容が中心。その他には地域で活動している人材（松代）や、立地特有の強み（戸隠・飯綱高原）の視点もあった。克服すべき課題は、善光寺界隈では多くの意見が寄せられ、その内容も周遊・動線・連携といった多様な視点からあげられた。他エリアでは、交通アクセスに関する課題が共通する課題である。